

こだま

第208号

2022. 1



金沢大学附属図書館報“こだま”

<https://library.kanazawa-u.ac.jp/>

徳田秋聲生誕 150 年記念特集

金大生のための 徳田秋聲入門



明治から昭和にかけて、自然主義文学の大家として文壇の第一線で活躍した金沢市出身の作家・徳田秋聲（とくだ しゅうせい 1871～1943）が金沢大学の前身の一つ、第四高等中学校に在籍していたことをご存じでしょうか？2021年、秋聲が生誕150年を迎えたのを記念し、徳田秋聲記念館の藪田由梨学芸員にその人となりや作品の楽しみ方など「秋聲のツボ」についてお尋ねし、必読書10点をご紹介します。この機会に、少々とっつきにくい印象のある、秋聲文学の魅力を再発見してみませんか？

特集とあわせて、徳田秋聲生誕150年記念企画展「金大生のための徳田秋聲入門」（2021年12月23日～2022年1月20日、中央図書館カウンター前）を開催

※展示開始日の12月23日は秋聲の150回目の誕生日です。

1. 秋聲ってどんな作家？

■秋聲はどんな作品を書いた作家だったのでしょうか？

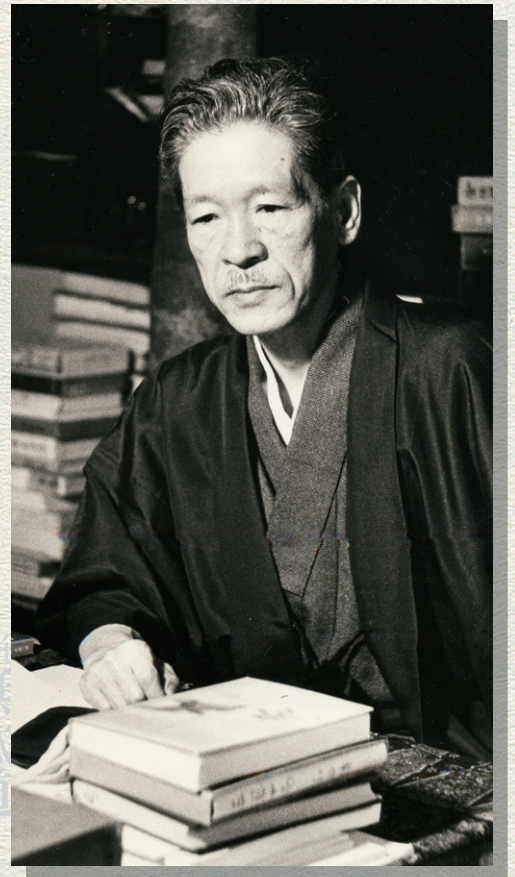
日本の「自然主義文学」の代表的な作家として、身の回りのことや当時の庶民の生活振りをありのまま綴る作風で知られています。代表作は『**黴**』^{かび}『**爛**』^{ただれ}『**あらくれ**』『**仮装人物**』『**縮図**』など。現実に生きる人間のことしか執筆のテーマとせず、幻想的なものは一切書きません。

■「金沢の三文豪」と呼ばれていますが、生前はどういう評価を受けていたのでしょうか？

三文豪のひとり・泉鏡花とともに尾崎紅葉門下から出発しますが、1903（明治36）年、紅葉が早くに亡くなり、1907（明治40）年前後、文壇に興った自然主義という新たな潮流に乗って田山花袋や島崎藤村らとともに一躍文名をあげました。その後は1943（昭和18）年に亡くなるまで第一線で作品を発表し続け、文壇の中心人物であるとともに「老大家」として尊重される存在でした。「芥川賞」「直木賞」と並んで現在も続く賞のひとつ「菊池寛賞」は、秋聲を敬愛した菊池寛がその存命中に、もともと文壇に長く活躍する先輩作家を讃える目的で創設したもので、その第1回受賞作が秋聲の『**仮装人物**』であったことは残念ながらあまり知られていません。

■秋聲はどんな感じの方だったのでしょうか？

無愛想なところがありとっつきにくく見えますが、老若男女分け隔てなく接することで有名でした。三文豪のひとりで秋聲の18歳年下にあたる室生犀星もそんな秋聲の飾らず決して先輩風を吹かせることのない人柄を慕っていますし、実は面倒見の良い秋聲なので多くの後輩たちにとっても大事にされました。西洋音楽が好きでレコードを収集したり、60代から社交ダンスを始めたりなど、モダンな一面もあるので、秋聲自身も若い人たちと交わって話を聞くことが好きだったようです。一方で、何でも思ったことをその場でズバズバ言うてしまうので、良くも悪くも空気の読めないところがあるかもしれません。ものごとの考え方・感じ方がとても自由で現代的で、そのあたりが原因で鏡花に長く敬遠されてしまうのですが、いかなる場においても付度とは無縁の秋聲のそうした発言力は、文壇で一目置かれてもいたようです。



徳田秋聲記念館所蔵の秋聲遺品。小説『**仮装人物**』冒頭に、秋聲をモデルとする主人公が仮装舞踏会でサンタクロース面を被って登場する場面がある。

2. 秋聲を読んでみよう！何から読む？どう読んだらいい？

■「この作品から入ればよい」といった、とっつきやすい秋聲作品を教えてください

代表作だからといって『**黴**』から入るのはおすすめしません。淡々としていて長いので、途中で挫折し、秋聲に苦手意識を抱ききっかけになりかねません。実は短編小説の切れ味が鋭く、どれも評価が高いため、『**夜航船**』『**或売笑婦の話**』『**風呂桶**』などから慣らしてゆくのが良いと思います。それから中編の『**爛**』『**新世帯**』あたりでしょうか。

ただし令和3年現在、一般の出版社から刊行されている秋聲作品は講談社文芸文庫『**黴**』『**あらくれ**』、岩波文庫『**あらくれ・新世帯**』、『**縮図**』の4冊だけです。絶版が相次ぎ、これらが売れないと今度こそ秋聲作品は書店から消えてしまうので、秋聲節に慣れて来られたら、これら4冊を是非購入していただきたいというのが徳田秋聲記念館としての本音です。逆に言うとこれ以外の作品は、図書館をどんどん活用してお読みいただきたいと思います。

あらくれ・新世帯

徳田秋聲作



徳田秋聲(1871-1943)は、生の愛みの愛しき、愛の切なさを、流麗にして風韻溢れる日本語により小説とした日本近代文学の高峰。物怖じせずに時代に抗して、一途に生きる女性の半生が暖かく語られる『あらくれ』。男女の微妙な葛藤を見詰めた『新世帯』。現代に新たな魅力を感じさせる代表作2篇。(解説・佐伯一史)



緑 22-7
岩波文庫

■秋聲作品を楽しむためのポイントや方法を教えてください

あらすじやストーリー性みたいなものを求めずに読んでみてください。物語のために作られた物語、物語のために作られた登場人物ではないので、そういう目線で読むとつまらないと思います。むしろちょっとした人と人とのやりとりとか言葉の一端、動作、表情の切り取り方、風景描写の美しさ、また読後の言葉にならない余韻など、`昔の文豪、と構えず素直に受け入れてみて、どこかしら自分に引っかかる場所が見つかるのが秋聲です。その引っかかりが、今後の読み方の糸口になります。予備知識が役に立つこともありますが、自分の体験を元にも書くことも多い作家なので、秋聲本人について詳しくなればなるほど作品に色々なフィルターがかかってしまうことがあり、そのあたりは良しわるしだと感じています。

3. 秋聲を感じてみよう！徳田秋聲記念館の見どころ

記念館で所蔵している秋聲の資料には一見して派手なものはありませんが、その分、時代の空気をそのまま全身に纏っています。本当のことを言うと、展示室のガラスケースの中に恭しく陳列するより、町家などの年季の入ったテーブルにポンと無造作に置かれる方が活きるタイプのものが多く、どのコーナーにおいても美しさというより秋聲その人と時代の手垢のようなものを感じていただきたい施設です。そういう意味では、東京に現存する旧宅書齋を再現したコーナーが自慢です。展示されている遺品はすべて本物なので、歴史上の人物でなく、まだそこに存在するかのような肉感や空気感を味わっていただければ嬉しいです。



外観



旧宅書齋再現コーナー



徳田秋聲記念館

<https://www.kanazawa-museum.jp/shusei/>

4. 秋聲をもっと知りたい！おすすめ図書ガイド

今回、藪田さんに秋聲についての必読書を解説付きで10点紹介していただきました。(解説は、附属図書館Webサイトからお読みいただけます。)

この機会に是非お読みください。

<https://hdl.handle.net/2297/00064487>



- ・『徳田秋聲全集』(全42巻別巻1) 八木書店, 1997-2006
- ・紅野謙介・大木志門編『徳田秋聲』(21世紀日本文学ガイドブック6) ひつじ書房, 2018
- ・中川成美『戦争をよむ70冊の小説案内』(岩波新書) 岩波書店, 2018
- ・古井由吉『古井由吉自撰作品』第5巻 河出書房新社, 2012 ※古井由吉は本学の元教員
- ・短編小説傑作集Ⅰ『風呂桶・和解・チビの魂』(徳田秋聲記念館文庫) 徳田秋聲記念館, 2019
- ・短編小説傑作集Ⅱ『車掌夫婦の死・戦時風景』(徳田秋聲記念館文庫) 徳田秋聲記念館, 2019
- ・『過ぎゆく日』改造社, 1926
- ・『古里の雪』白山書房, 1947
- ・『一つの好み』鎌倉文庫, 1946
- ・『徳田秋聲(一)・(二)』(日本の文学第9編・第10編) 中央公論社, 1966

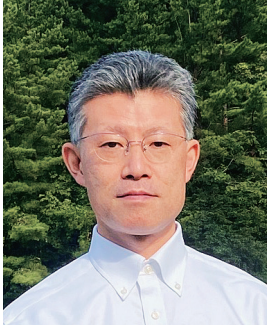
藪田さんから金大生へのメッセージ

せっかく金沢にいらっしゃるうちに、郷土の誇る文豪の作品をひとつでもぜひ読んでみてください。結局文学は好き嫌いなので、読んでみて「秋聲って苦手かも」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、読まないことにはそんな印象さえ出て来ません。また、殊に秋聲作品というのは、読む年齢、環境、心理状態によってまったく異なる感慨を与えてくれる懐の深さ(縛りの緩さ?)を持っています。年を経て、こう感じ方が変わった、若い頃はああだったのに、といった類いの感動を得るためには、若き日の自分がどう感じたかということをも、記録しておかねばなりません。それは後になってはできないことです。つまらないと思ったものは一生つまらないままなのか、あんなに面白いと思ったものがいつか色褪せて見えるのか、あるいは数々の人生経験を得てようやくその深みのわかってくるものがあるのか、そんな実験の幅に、金沢という土地をご縁として「徳田秋聲」も加えていただけると幸いです。

【写真・ロゴ提供、記事協力：徳田秋聲記念館】



何かに没頭したいときにおすすめの本



私は学生時代、歴史小説にはまった時期があり、まさに寝食を忘れて読み漁っていました。睡眠不足になりながらも風呂に浸かっている時にも止められず、そのまま眠りそうになって小説を浴槽に落としてしまったこともあります。しかし研究者になった現在、なかなかまとまった時間を確保することが難しくなり、せいぜい雑誌の数ページの読み切り、という寂しい読書生活を過ごしています。しかし読み進める度に押さえているページの厚さが変わっていくアナ

ログの快感が忘れられません。今もいずれ時間ができたら読みたいと思う小説を積読しています。

今回の記事を執筆する機会が私に回ってきたのはそんな折です。そこで私は「何かに没頭している人」を題材にした書籍を中心に紹介したいと思います。何かに没頭した結果が世に報われたか否かはそれぞれですが、その本人には人生の中で充実した期間であることは間違いありません。皆さん、何かに没頭する時間がある時に、その対象を見つけることも大切です。現在、ウイルス禍で私達の行動の制限が余儀なくされています。二度と無いかもしれない（ことを願って）この機会を活用してみませんか。

	書名 著者・出版事項
1	天平の薨 井上靖著, 新潮社, 1964.3
2	正倉院薬物の世界 鳥越泰義著, 平凡社, 2005.10
3	大谷光瑞の生涯 津本陽著, 角川書店, 1999.3
4	河口慧海日記 河口慧海[著]; 奥山直司編, 講談社, 2007.5
5	我に秘薬あり 山崎光夫著, 講談社, 2013.3
6	紅茶スパイ 英国人プラントハンター中国をゆく サラ・ローズ著 築地誠子訳, 原書房, 2011.12
7	「お釈迦さまの薬箱」を開いてみたら 太瑞知見著, 河出書房新社, 2021.5

メッセージ全文と1冊ずつの紹介文は、図書館教員おすすめ図書展示コーナー及びWebサイトでご覧いただけます。

1~3月の開館カレンダー

学外者の入館や、施設の利用制限については、「新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた金沢大学の活動指針」に応じて、適宜行っています。最新情報は図書館Webサイトをご覧ください。

中央図書館	SUN MON TUE WED THU FRI SAT	SUN MON TUE WED THU FRI SAT	SUN MON TUE WED THU FRI SAT
1 8:45-22:00 2 8:15-22:00 3 8:45-17:00 4 9:00-17:00 5 8:45-12:00 6 休館 Closed	1 Jan. 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2 Feb. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	3 Mar. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
自然科学系図書館	SUN MON TUE WED THU FRI SAT	SUN MON TUE WED THU FRI SAT	SUN MON TUE WED THU FRI SAT
1 8:45-22:00 2 8:45-17:00 3 10:00-17:00 4 8:45-12:00 5 休館 Closed	1 Jan. 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2 Feb. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	3 Mar. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
医学図書館	SUN MON TUE WED THU FRI SAT	SUN MON TUE WED THU FRI SAT	SUN MON TUE WED THU FRI SAT
1 8:30-22:00 2 8:30-17:00 3 10:00-16:00 4 10:00-17:00 5 休館 Closed	1 Jan. 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2 Feb. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	3 Mar. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
保健学類図書室	SUN MON TUE WED THU FRI SAT	SUN MON TUE WED THU FRI SAT	SUN MON TUE WED THU FRI SAT
1 8:45-22:00 2 8:45-17:00 3 10:00-17:00 4 休室 Closed	1 Jan. 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2 Feb. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	3 Mar. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

※2022/2/19(土)閉館後~2/28(月)図書館システム更新のためOPAC plus, ILL, 図書購入依頼などは利用できません。

イベント・新サービス案内

2021年12月8日
~2022年2月8日
とぼら選書ツアー図書展示
中央図書館2階とぼらおすすめ図書コーナー

2022年1月17日
~2月18日
科学道100冊2021
自然科学系図書館1Fカウンター前

2022年1月24日~2月10日
人間社会学域「中等国語科教育法A」課題発表展
推し本をPOPで紹介/絵本の旅
中央図書館カウンター前, ギャラリーα

2022年2月16~17日
アクセプトされるための科学
英語論文とは
オンライン開催

毎週水曜日15:00~15:30
とぼら読書会
中央図書館3階
オープンスタジオ



金大図書館時習基金報告

2021年4月1日~2021年12月28日
●寄附件数 1件
設立からのご寄附累計
20件/730,000円
ありがとうございます

編集後記 徳田秋聲記念館及び佐々木先生のご協力をいただき、読み応えのある号ができました。改めてお礼申し上げます。

令和4年1月5日発行 発行：金沢大学附属図書館 編集：広報委員会【特集記事担当：橋 洋平】